

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2006-2008
 課題番号：18530705
 研究課題名 (和文) <遊び的な活動>と<基礎の定着>を結ぶ小中連携美術教育の構築
 及び教師教育への展開
 研究課題名 (英文) Linking “Playful Activities” in Elementary Schools to “Basic Skills
 Acquisition” in Lower Secondary Art Education and Applications to Teacher Training
 研究代表者
 宇田 秀士 (UDA HIDESHI)
 奈良教育大学・教育学部・教授
 研究者番号：20283921

研究成果の概要：小中連携教育の先行実践校では、子どもの学年が上がるにつれ自尊心や学習意欲の低下があることへの危機意識が根底にあり、従来の6-3システムではなく、4-3-2システムや3-4-2システムなど新たな枠組みが試行されていた。本研究協力者は、小学校「造形遊び」の中学校での活かし方を工夫したり、中学校において「表現することの意味」について洞察する題材配列を構想・実施した。これらをふまえ、研究代表者は、大学授業や現職教員講習などのプログラムを検討の上、実施した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18(2006)年度	2,100,000	0	2,100,000
平成 19(2007)年度	1,000,000	300,000	1,300,000
平成 20(2008)年度	600,000	180,000	780,000
——年度	——	——	——
——年度	——	——	——
総計	3,700,000	480,000	4,180,000

研究分野：美術科教育学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学 (No. 4003)

キーワード：(1) 美術教育、(2) 小中連携教育、(3) 教師教育、(4) 遊び的な活動、
 (5) 基礎の定着、(6) 「造形遊び」、(7) 鑑賞活動、(8) 描画活動

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究課題名にある「<遊び的な活動>と<基礎の定着>」とは、文部科学省の学習指導

要領における小中学校の教科内容を象徴的に示した表現である。<遊び的な活動>とは、「造形遊び-材料などをもとにした楽しい造

形活動」の理念を基調とする小学校図画工作科の目指す方向性を示した。また〈基礎の定着〉とは、素描など基礎的な能力の定着を行い、生涯学習の礎にしようとする中学校美術科の方向性を示した。

(2) こうした学習指導要領の方向性の違いのほか、それぞれの校種のおかれた状況や子どもの違いもあり、教育現場では、十分な連携意識なしに教育活動が行われていると考えられた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、美術教育における小学校と中学校の連携体制を構築させるための基礎研究を行い、大学教育や現職教員向け講習などの教師教育プログラムに反映させようとするものである。

(2) そして、上記の目的のために次の3つの、小〈課題〉を設定して、研究を進めた。

〈課題1〉美術教育行政におけるや小中連携美術教育に関する姿勢と先行教育実践の整理と考察

〈課題2〉小中連携をふまえた美術教育のための〈単元・題材〉開発とその実践・検証

〈課題3〉美術教育教師教育プログラムの展開

3. 研究の方法

(1) 〈課題1〉学校教育における他教科や他領域も含めた〈小学校と中学校の連携教育〉の全体像をふまえる。そして、学習指導要領や文科省研究開発学校など関連著作から美術教育における連携教育の理念や枠組みを整理する。また、民間教育団体や研究サークルなどの著作から、美術教育実践における〈小学校と中学校の連携教育〉に関する言説や実践を取り出し、研究開発学校の実践とあわせて整理・考察する。

(2) 〈課題2〉研究代表者である宇田は、研究協力者である小中学校の現役教師を中心とした研究サークルを設けている。この研究会において、上記〈課題1〉の成果をふまえ、小中連携教育構築のための討議、美術授業における〈単元・題材〉開発を行い、各勤務校において、その実践・検証を行う。研究代表者は、大学において、教材・教具作成の支援を担う。描画活動、「造形遊び」活動、鑑賞活動などについて、実践・検証する。

(3) 〈課題3〉上記の成果をふまえ、学部、大学院、現職教員研修向けのプログラムを構築し、大学授業や現職教員研修で試行する。

4. 研究成果

(1) 小中連携教育を掲げる地域や学校においては、小学校高学年と中学校との接続に留意し、従来の6-3システムではなく、4-3-2システムや3-4-2システムといった新たな枠組みが試行されている。学年があがるごとに自尊感情や学習意欲の低下があることへの危機意識が根底にある。また、その要となる教科としては、英語、算数・数学、国語、理科等の一部の教科や「総合的な学習の時間」を軸にしたものが多く、美術教育がここにどう寄与していくかが課題となる。

(2) 1968/1969年時の改訂から1998年までの4回の改訂における図画工作・美術科教育行政の姿勢をみると、学習指導要領改訂時の関連著作において、〈連携／一貫教育〉の姿勢は後退しているようにも見える。この要因をあげるとするならば、小学校、中学校のそれぞれの時期の子どもの特徴がより一層明らかにされ、それぞれの校種の独自性を追究したからだとも考えられる。将来の姿というより、子どものいわば〈現在の姿〉をより重要視したのだと考えられる。

(3) しかし、〈学習指導要領における小学校

「造形遊び」の中学校での発展的つながり>や<小学校における「想像的描写」と中学校における「再現的描写」とのつながり>などは示されておらず、検討が必要である。特に、写実も含めた広義のリアリズムの問題をどう扱うかが問題となる。

(4) 文科省研究開発学校における図画工作・美術科学習では、教科内容を支える「関心・意欲・態度」を軸とした展開、「造形遊び」の中学校での展開、「鑑賞活動」の総合性を活かす試みなどが展開されていた。上記(3)の課題を克服する上でも注目される。

(5) 民間教育団体「美術教育を進める会」では、長年、発達を軸にして研究実践を進めてきた。描画活動における9-10歳の節の克服、手の活動に関する実践例など、今日の<連携／一貫教育>の観点から再検討し、実践に活かす必要がある。

(6) 図画工作・美術科学習の<連携／一貫教育>の枠組みづくりの作業の中で、目標や内容の記述が抽象化し、実際の活動を想起しにくい場合がある。教科構造を再構成するためには、やむを得ない面もあるが、必ず、具体的な題材配列も付随させて、現実の教育現場に対応する姿勢が求められている。

(7) 文部・文科省小学校学習指導要領図画工作編に正式に位置づけられて30年を迎えようとしている「造形遊び」について、様々な立場からの<批評的論述>の集約・整理を行い、考察した。そして、そこから、次のような“彫琢”項目を提示した。

①現在の枠組みにおける役割の再考

- ・登場の背景の理解
- ・現在の枠組みの中での役割の再考

②理念の軌道修正

- ・<「主観絶対主義・情緒規範主義・ミイイズム」偏重姿勢>の是正
- ・<「遊び」の起爆力と時間構造>の自覚

③<育む「力」と評価>の具体的な設定及び

これらをふまえた内容規定

④図画工作科全体構造の再構築

- ・内容区分と学年発展
- ・教えるべき最低限の内容
- ・材料の絞り込みと発展
- ・個人と集団の見極め

⑤<遊びの過程>の方法論における活用-内容と方法の混同を排して

(8) 研究協力者の岡田陽子教諭は、小学校で取り組んだ「造形遊び」の中学校段階での活かし方について、人数を絞り、テーマを明確にした選択教科学習につなぐ実践事例を示した。事例の中では、関係する現代美術の鑑賞を絡ませながら、材料、場、環境などを活かした造形活動を展開した。

(9) 三木裕子教諭は、小中での実践をもとに、小学校では、基本的な事項をおさえながら、「表現することの楽しさ」を味わえる題材配列を構想した。また、これに続く中学校では、基本的な事項をおさえながら、この時期の特徴である自我の形成に寄与しようとする意図から「表現することの意味」について洞察する題材配列を構想した。「表現自体の楽しさや意味」と「現実世界の出来事や自然からの享受」とともに大切にし、思春期における自我の形成への寄与する三木構想は、特に小学校高学年から中学校での接続期の在り方を考える上で、大きな可能性を感じさせた。

(10) 中学校教諭である田邊憲幸教諭は、小学校6年生に対して、表現活動をからめた鑑賞の授業を行った。授業成立までの話し合いや授業後の検討会の内容は、今後の小中連携の取り組みへの財産となった。

(11) 大学授業の「総合演習：アート」、「初等教科教育法：図画工作」、「中等教科教育：美術」、現職教員向けの「鑑賞教育研修」「造形遊び」研修などで、上記課題1、2をふ

まえた内容を構築して、実施した。学習指導要領に記載されている大綱的な記述の具体化、材料に対する理解や用具使用の習熟、発想／意見の導き方と総括の仕方などを工夫して行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

① UDA, Hideshi, Invited Seminar Japan-Germany Joint Program "Human Development in Artistic Activity -Through an International Comparison Study of *Playful Art Study*" *The 32nd InSEA World Congress 2008 in Osaka Programme. The Organizational Committee The 32nd InSEA World Congress 2008 in Osaka, Japan* (「招待セミナー 日独共同企画 「芸術における人間形成」-「造形遊び」に関する国際比較の視点も交えて」『第32回 InSEA(国際美術教育学会)世界大会 2008 in 大阪 大会概要集』2008年7月)pp.214-215, 218-219. 査読無し.

② UDA, Hideshi, Japanese Art Education Inspired by Culture Trends around the Early 1970s: The Introduction of *Zokei-Asobi(Playful Art Study)* in the 5th National Course of Study(1977) and the Activities of the Art Education Group *Do no Kai*, Osaka, *The 32nd InSEA World Congress 2008 in Osaka, Japan World Congress and Research Conference Presentations and Workshops CD*.(ed. by Review Board Congress Agenda Planning Committee, The 32nd InSEA World Congress 2008 in Osaka, Japan), July 2008, pp.1-10. 査読有り

③ 宇田 秀士「図画工作・美術科教育における<小中連携/一貫教育>の現状と課題」『美術教育学-美術科教育学会誌』第29号, 2008

年3月, 全707p, pp. 103-116, 659. 査読有り.
CiNi NII国立情報学研究所 論文情報ナビゲータページ

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110006999345/>

④ UDA, Hideshi, Teacher's Awareness on *Zoke-Asobi (Playful Art Study)* in the Elementary School Art and Craft Section of the Japanese National Course of Study, Proceeding 2007 InSEA Asian Regional Congress Seoul, Korea. Seoul National University. August 2007, 983p, pp.336-345. 査読有り.

⑤ 三木 裕子、宇田 秀士「小中連携の題材構想-小中での経験を活かして」『大阪児童美術研究会 研究紀要』第74巻, 平成19(2007)年7月, 全30p, pp. 22-29. 査読なし.

⑥ 宇田 秀士「文部省・文部科学省学習指導要領図画工作編「造形遊び」に対する<批評的論述>の考察-“彫琢作業”をふまえた「造形遊び」に向けて-」『美術教育学-美術科教育学会誌』第28号, 平成19(2007)年3月, 全487p, pp. 67-87. 査読有り. 奈良教育大学学術リポジトリページ

<http://dspace.nara-edu.ac.jp:8080/dspace/handle/10105/628>

⑦ 宇田 秀士, 岡田 陽子, 三木 裕子, 田邊 憲幸「美術教育における小中連携教育を考えるために」『児童美術-大阪児童美術研究会研究紀要』第73巻, 平成18(2006)年7月, 全113p, pp. 102-109. 査読なし

[学会発表] (計 10 件)

① 宇田 秀士「第32回 InSEA(国際美術教育学会)世界大会 2008 in 大阪 報告: <招待セミナー 日独共同企画「芸術における人間形成-「造形遊び」に関する国際比較の視点も交えて」について>」第31回美術科教育学会佐賀大会、平成21(2009)年3月29日(日) 9:30-9:55, 佐賀大学本庄キャンパス「教養教

育機構棟 2 号館」棟 213 番教室 (B会場)

② 宇田 秀土「美術科教育学会第 5 回, 12 回西地区会をコーディネートして」(特別企画「東西地区会の今後を問う」の中で 宮脇 理, 花篤 實, 橋本泰幸, 板良敷 敏, 岩崎由紀夫, 永守基樹, 福本謹一, 直江俊雄, 山田一美とともに) 第 31 回美術科教育学会佐賀大会、平成 21(2009)年 3 月 28 日(土) 14:30-14:55, 佐賀大学本庄キャンパス「教養教育機構棟 2 号館」212 番教室 (A会場)

③ UDA, Hideshi, Art Education Inspired by Cultural Trends around the Early 1970s: The Introduction of *Zoukei-Asobi(Playful Art Study)* in the 5th National Course of Study(1977) and the Activities of the Art Education Group Do no Kai, Osaka, The 32nd InSEA (International Society for Education through Art) World Congress 2008 in Osaka, Japan, Room 8(*Sakura Nishi*) in International House, Osaka, pm.18:30-18:55. August 8 2008.

④ UDA, Hideshi, Current Conditions and Issues in *Zoukei-Asobi(Playful Art Study)* in Elementary School Art and Craft Education in Japan, The 32nd InSEA World Congress 2008 in Osaka, Japan, Room 7(*Sakura Higashi*) in International House ,Osaka,, pm.13:00-14:40. August 7 2008. (コーディネーター宇田 秀土「招待セミナー 日独共同企画 「芸術における人間形成」-「造形遊び」に関する国際比較の視点も交えてJapan-Germany Joint Program "Human Development in Artistic Activity -Through an International Comparison Study of *Playful Art Study*」)の中で)

⑤ 宇田 秀土, 岡田 陽子「図画工作・美術科教育における<小中連携／一貫教育>の現状と課題」第 30 回 美術科教育学会群馬大会、2008 年 3 月 29 日(土)9:00-9:30, 群馬大学荒巻キャンパス教育学部G棟 B室 (GB-154

教室)

⑥ 岡田 陽子、宇田 秀土「小・中学校の経験から、小中連携の仮説-「造形遊び」の発想でつなぐ、造形活動の面白さ-」美術科教育学会群馬大会、2008 年 3 月 29 日(土)9:35-10:05, 群馬大学荒巻キャンパス教育学部G棟 B室 (GB-154 教室)

⑦ UDA, Hideshi, Teachers' Awareness on "*Zoeke-Asobi*" (*Playful Art Study*) in the Elementary National School Art and Craft Section of the Japanese National Course of Study. General Congress Presentation, 2007 InSEA Asian Regional Congress, Seoul, Korea, 9:30-9:55, August 23(Thurs.) 2007 Room 505,83Multimedia Lecture Building, Seoul National University.

⑧ 岡田 陽子, 黒田(梶谷) 幸恵, 三木裕子, 田邊 憲幸, 宇田 秀土「美術教育における小中連携教育の構想と実践」大阪児童美術研究会第 50 回研究発表会, 2007 年 7 月 30 日(月)9:00-10:50, 大阪教育大学附属天王寺小学校 1 年 3 組教室

⑨ 宇田 秀土「第 5 回西地区会の成果, 「造形遊び」に対する批評的論述について」美術科教育学会第 12 回西地区会<研究発表会 in Osaka>: “三十歳” 目前の「造形遊び」を磨く-Do(行為), 現在性, 出会いと陶冶, 小中連携, 図画工作・美術教育政策, 平成 18(2006)年 12 月 23 日(土)、13:55-14:15, 大阪教育大学天王寺キャンパス中央館 2 階 215 大講義室B.

⑩ 宇田 秀土, 田邊 憲幸, 梶谷 幸恵, 岡田 陽子, 三木 裕子「美術教育における小中連携教育を考える」大阪児童美術研究会第 49 回研究発表会, 2006 年 7 月 31 日(月)9:00-10:50, 大阪教育大学附属天王寺小学校 3 年 3 組教室

〔図書〕(計5件)

① 監修・編著大橋功『美術教育概論改訂版』日本文教出版,2009年3月,全232p.宇田 秀士担当部分pp.32-37.(第I部第4章 美術教育の変遷-その理念と思想)

② 『奈良教育大学 教育実習の手引き-教育実習ハンドブック』2009年3月,全260p.宇田担当部分pp.114-116,pp.167-168. (「7. 小学校図画工作科、中学校美術科、高等学校芸術科(美術、工芸)」 「13. さらに研究を深めるための参考文献」)

③ 宇田 秀士編、執筆 三澤 正彦、今西 榮、宇田、岡田 陽子、人見 和宏、吉田 貴富『美術科教育学会第12回西地区会<研究発表会in Osaka>記録集-“三十歳” 目前の「造形遊び」を磨く』ABS出版,全109頁,2007年12月.

④ 井上 正作、金子 一夫監修、分担執筆 宇田 秀士ほか『感性の論理とその実践3-美術科教師教育学』大学教育出版,全287p,2007年8月,宇田担当部分pp.48-57.「美術科教師の基礎教養養成の論理」.

⑤ 宇田 秀士編、執筆 三澤正彦、今西 榮、宇田、岡田陽子、人見和宏、吉田貴富『美術科教育学会第12回西地区会<研究発表会in Osaka>概要集-“三十歳” 目前の「造形遊び」を磨く』ABS出版,全82頁,2006年12月.

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件) / 取得状況(計0件)

〔その他〕 成果 / 活動内容の Web URL

① 奈良教育大学学術リポジトリ
<http://dspace.nara-edu.ac.jp:8080/dspace/index.jsp>

② 奈良教育大学美術科教育研究室
<http://mailsrv.nara-edu.ac.jp/~udah/udaken/>

③ 第32回 InSEA(国際美術教育学会)世界大会 2008 in 大阪 The 32ed InSEA World Congress 2008 in Osaka, Japan.

<http://www.convention-j.com/InSEA-WC2008osaka/>

<http://www.art.hyogo-u.ac.jp/fukumo/InSEAINJapan/photoinsea/PhotoGallery.html>

<http://www.convention-j.com/InSEA-WC2008osaka/ja/congressagenda.html>

<http://www.convention-j.com/InSEA-WC2008osaka/congressagenda.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宇田 秀士(UDA, Hideshi)
奈良教育大学・教育学部・教授
研究者番号:20283921

(2) 研究分担者及び(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

田邊 憲幸(TANABE, Noriyuki) 茨木市立西陵中学校・教諭 / 黒田(梶谷) 幸恵(KURODA, Sachie) 東大阪市立金岡中学校・教諭 / 梅田 佐江子(UMEDA, Saeko) 大阪狭山市立狭山中学校・教諭 / 岡田 陽子(OKADA, Youko) 河南町立石川小学校・教諭 / 三木 裕子(MIKI, Hiroko) 豊中市立少路小学校・教諭 / 石垣 倫生(ISHIGAKI, Michio) 近畿大学附属高校・講師 / 上島 昌晃(UESHIMA, Masaaki) 大阪教育大学附属平野小学校・教諭 / 赤座 雅子(AKAZA, Masako) 子ども絵画造形教室 Kids' craft・講師